

眼科 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム

1. 眼疾患の病態を理解し、緊急性疾患の評価を行う。
2. 細隙灯顕微鏡、眼底鏡を使用し診察を行う。
3. 顕微鏡下での手術手技を行う。

研修目的

眼疾患に対する基本的な診察方法および、眼科緊急性疾患の判断と初期対応の習得を目的とする。

研修目標

◇ 一般目標

眼疾患に対する基本的な診察方法を学び、眼科緊急性疾患の判断と初期対応の習得を目指す。また顕微鏡下での操作を経験することで縫合などの技術習得を目指す。

◇ 行動目標(SBOs)

1. 眼疾患の診断に必要な病歴を聴取し記載することが出来る。
2. 屈折検査、視力測定、眼圧測定などを行い視機能評価を行うことが出来る。
3. 細隙灯顕微鏡、眼底鏡を使用し診察を行い、所見を記載することが出来る。
4. 頻度の多い眼疾患に対する治療を行うことが出来る。
5. 眼科緊急性疾患の初期対応が出来る。
6. 顕微鏡下手術の基本手技を理解することが出来る。

◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

白内障、緑内障、糖尿病網膜症、網膜剥離などの手術手技を経験することが出来る。
その他の眼科疾患、黄斑変性などに対する治療を経験することが出来る。

研修方略

LS	方法	該当 SBOs	対象	場所	媒体	人的資源	時間	学習時期
1	実技	2	研修医	外来	臨床研修実技	視能訓練士	2 時間	月曜午後
2	外来研修	1,3,4,5	研修医	外来	カルテ	指導医	外来時間	毎日
3	実技	6	研修医	手術室	顕微鏡	指導医	手術時間	月水金

研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
1~6	形成的	態度、知識	指導医	研修中	観察記録

週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 外来診療 手術	病棟回診 外来診療	病棟回診 外来診療 手術	病棟回診 外来診療	病棟回診 外来診療 手術
午後	外来診療 手術	外来診療	外来診療 手術	外来診療	外来診療 手術

指導責任者および指導医

指導責任者： 高橋 秀肇

指導医： 西郷 陽子

〃 : 多田 麻子

〃 : 一迫 玲央

〃 : 安達 彩

学生（4~6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可 ・ 参加不可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

研修医発表会や学会で発表できるよう指導を行う。

同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：3ヶ月）

2名/1クール